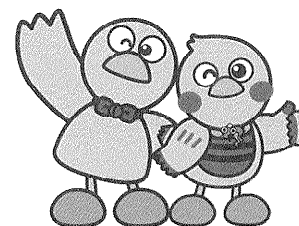


令和元（2019）年度 第50回 関東甲信越静社会教育研究大会埼玉大会

1 大会スローガン

今、時代が変わる 人が変わる そして社会が変わる！
～ さあ動き出せ “学び” の先へ ～



埼玉県マスコット
コバトンとさいたまっち

2 研究主題

あなたはどう生きる？ 人生100年時代！
～ 主役はあなた 明るく心豊かな社会の実現 ～

3 趣 旨

2019年は、「関東甲信越静社会教育研究大会」も第50回を迎え、半世紀の節目を数えます。また、元号も平成から新元号・令和に変わりました。まさに新しい時代の幕開けです。

そこで私たちは、この年を『新社会教育元年』と位置付けました。これまで社会教育が歩んできた道のりを見つめ直しながら、『明るく豊かな未来』の実現に向けて、時代に即した新たな社会教育を模索し、行動していかなければなりません。そのためには、私たち自身が学びなおすことが大切です。

「不易流行」。私たちは、これまで積み重ねた活動や培った文化から学び、変わってはならないものは尊重し、より効果的に伝承しつつも、これまで経験したことのない新しい文化や価値観、そして目まぐるしく変化する時代の中で、どのような活動が求められているのか、その在り方や手法を見極め、志を持って学び、行動する使命があるのではないのでしょうか。

輝ける未来の主役はあなたです。本大会は、来たるべき新時代にどう生きるか、一人ひとりの幸せや心の豊かさとは何かを真剣に討議し、新時代に向けた実践の必要性を発信（発信）するため、社会教育について研究・協議することを趣旨とします。

4 主 催 ・ 共 催

一般社団法人全国社会教育委員連合、関東甲信越静社会教育委員連絡協議会、埼玉縣市町村社会教育委員連絡協議会、第50回関東甲信越静社会教育研究大会埼玉大会実行委員会、埼玉県教育委員会、川越市教育委員会

5 後 援 ・ 協 力（順不同）

さいたま市教育委員会、埼玉県公民館連絡協議会、埼玉県PTA連合会、一般社団法人埼玉県PTA安全互助会、埼玉県高等学校PTA連合会、一般社団法人埼玉県子ども会連合会、埼玉県家庭教育振興協議会、埼玉県図書館協会、埼玉県地域婦人会連合会、埼玉新聞社、公益社団法人日本青年会議所関東地区埼玉ブロック協議会、埼玉県博物館連絡協議会、埼玉縣市町村教育委員会連合会、埼玉県町村教育長会、埼玉県中学校長会、埼玉県公立小学校長会、埼玉県高等学校長協会、テレ玉、一般社団法人埼玉県商工会議所連合会、埼玉県商工会連合会、川越商工会議所、株式会社まちづくり川越 他

6 期 日

令和元年11月7日（木）～8日（金）

7 会 場

主会場 川越市・ウェスタ川越 埼玉県川越市新宿町1丁目17番地17

TEL: 049-249-3777（大会内容に関する問い合わせはご遠慮ください）

〈全体会〉 大ホール 〈分科会〉 ウェスタ川越内各施設

※参加人数により会場が流動的になります。

8 参加者 関東甲信越静各都県及び政令指定都市の社会教育委員・社会教育担当職員をはじめ
 公民館担当者、社会教育・生涯学習関係者・地域連携を担当する教職員 約 800名
 (本大会への参加を希望する方は、どなたでも歓迎します。)

9 参加費 一人 3,500円(資料代)

10 大会報告書 1冊 1,000円(参加費には含まれていません)

11 大会日程

1日目	12:00 12:45		16:40					
11月7日 (木)	受付 11:00~12:00	歓迎 セレモ ニー	開 会 行 事	基調講演 13:15-14:45	シンポジウム 15:00-16:30	閉 会 行 事	分科会打ち合わせ 17:10-17:50	情報交換会 (川越東武ホテル) 18:30-20:30
2日目	9:00							
11月8日 (金)	受付	分科会 9:15-12:00	※分科会ごとに解散 閉会后 ① ウェスタ川越前交流広場にふれあい・語り合いスペースを開設します。 ② 研修旅行(別途お申し込み)。※7ページ参照。 小江戸川越歴史散策コースを企画しましたので、ふるってご参加ください。					

12 基調講演

演 題 「学びがひらく 豊かな人生」

講 師 学校法人 文教大学学園 理事長 野島 正也 氏



13 シンポジウム

テーマ 「あなたはどう生きる? 人生100年時代!」

登壇者 コーディネーター 加藤 大輔氏(日高市高萩北地区青少年健全育成の会理事)
 アドバイザー 小池 茂子氏(聖学院大学教授・元さいたま市社会教育委員)
 シンポジスト 羽石 貴裕氏(NPO法人彩の国自然学校C's代表
 ・埼玉県社会教育委員)

平野 和弘氏(駿河台大学講師・飯能市社会教育委員)

田中 悠子氏(快サークル コロネット 代表)

※その他、様々な世代のパネラーが出演予定

14 分科会(詳細は、4ページ参照)

分科会	実施方法	テーマ
第1分科会	事例研究	社会教育の担い手としてのあり方
第2分科会		人生100年時代における社会教育の実践
第3分科会	グループ協議	市民と行政のパートナーシップ
第4分科会		人材発掘、養成、フォローアップのあり方
第5分科会		社会教育のネットワークづくり

<実施方法についての補足>

- ・事例研究: テーマに沿った事例発表を聞き、社会教育関係者としての資質向上を図る。
- ・グループ協議: 小グループに分かれ、テーマに沿って自身の活動や経験を話し合う。

第50回関東甲信越静社会教育研究大会冊子（令和元年11月）より抜粋

現代社会は、人間の長寿命化（人生100年時代）、人工知能（AI）やIoT（Internet of Things）の進展等の急速な技術革新による「Society5.0」（※）の到来等、目まぐるしい変化の中で、人々の関心も日々変化しています。

こうした中、少子高齢化に伴う人口減少や働き方改革、外国籍市民の増加など、私たちの日々の暮らし方も変化しています。地域活動においては、地縁組織のあり方が問われる機会も増えています。

平成30年12月の中央教育審議会答申では、地域における社会教育の意義と果たすべき役割として、「社会教育」を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくりを提唱しています。私たちは、長くなった人生をより豊かで幸せに過ごすため、健康長寿のみならず、ライフスタイルやライフステージに合わせた多様な就労のあり方や文化・余暇活動の習得など、多くのことを学ぶ必要があります。

※サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）のこと。狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において、我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。

人生100年時代構想会議（※）中間報告（平成29年12月）より抜粋

（人生100年時代）

我が国の長寿社会はどこまで進んでいくのか。ある海外の研究を基にすれば、「日本では、2007年に生まれた子供の半数が107歳より長く生きる」と推計されており、我が国は健康寿命が世界一の長寿社会を迎えている。こうした人生100年時代においては、人々は、「教育・仕事・老後」という3ステージの単線型の人生ではなく、マルチステージの人生を送るようになる。また、長い人生を通して自分の家族を支えなければならないため共働き世帯が増えるなど、家族の在り方も変化していく。100年という長い期間をより充実したものとするためには、生涯にわたる学習が重要である。スポーツや文化芸術活動・地域コミュニティ活動などに積極的に関わることも、個人の人生や社会を豊かにする。

こうした「超長寿社会」を世界に先駆けて迎える日本において、単線型ではない、多様な「人生の再設計」をどう可能としていくか。教育や雇用制度、社会保障など、国の制度はどうあるべきなのか。これこそが、人生100年時代を見据えて考えなければならない大きなテーマである。

※平成29年9月に首相官邸に設置された政策会議。内閣総理大臣を議長とし、人生100年時代を見据えた経済・社会システムを実現する政策のグランドデザインに係る検討を行う。

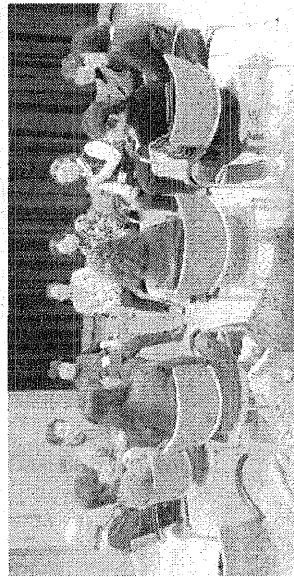
中央教育審議会答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」（平成30年12月21日）より抜粋

- 人生100年時代には、「高齢者から若者まで、全ての国民に活躍の場があり、全ての人が元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことのできる社会をつくる必要」があり、その重要な鍵を握るのは、生涯学習社会の実現にあると考えられる。一人一人が、学びを通じてその能力を維持向上し続けることができるよう、誰もが生涯にわたり必要な学習を行い、その成果を個人の生活や地域での活動等に生かすことのできる「生涯学習社会」実現への取組をより強固に進める必要がある。
- 住民個人に着目すると、地域における住民の学びは、健康な暮らし、安全な暮らし、子育て、趣味・教養の充実、職業的・社会的課題への対応、生きがいつくりなど、個人の問題意識や関心をきっかけとして行われ、その学びの過程を通じて個人の知的欲求が満たされ、生活の改善や、人間としての成長、自己実現につながっていくことが期待される（人づくりという側面）。
- 住民相互の関わりという点では、社会教育における学びの場では、住民の学びを通じたつながりの輪の中で、同様の悩みや類似の関心を持つ者同士の助け合いや、異なる意見を持つ他者との対話や議論が生まれる。このような相互学習を通じて、相互に理解し認め合うことによる自己肯定感や幸福感、つながり意識などが醸成され、住民同士の絆が強まるなどの効果がもたらされると考えられる（つながりづくりという側面）。
- 地域で共に学び、問題意識を共有したり、相互に認め合い、自らが地域の中に居場所を持っているという肯定感を得たりする過程を通じて、地域に対する愛着や誇り、帰属意識が育まれる。このことは、住民同士が対話や議論を通じて地域の将来像を考え、自らも当事者としてよりよい地域づくりに持続的に取り組もうとする意欲にもつながるものである（地域づくりという側面）。
- さらに、学びを学びで終わらせるのではなく、その成果を地域の活動の中で積極的に生かすことは、誰かの役に立っているという喜びをもたらし、より積極的に地域の活動に参画する熱意や、更なる課題解決のために新たな学びを求めるといった、持続的な学びと活動の循環につながっていく。人生100年時代を迎え、家族や学校、仕事に加え、地域での生きがいある活動に世代を問わず参加することは、一人一人の人生をより充実したものである上で大きな意義を持つと考えられる。
- 社会教育を通じ、最終的に目指すべきは、個人の幸福な人生と、持続可能な活力ある社会の実現であり、その大きな鍵の一つが、「地域づくり」と考える。社会教育が「人づくり」「つながりづくり」という強みを最大限に発揮しつつ、「地域づくり」に大きく貢献しながらその目的を達成することができるよう、今後は、より多くの住民の主体的な参加を得て（学びのきっかけづくりと学習成果の活用）、多様な主体の連携・協働（社会教育関係団体、学校、企業、NPO等との連携・協働）と幅広い人材の支援により行われる社会教育（地域の学びと活動を推進する人材の育成と活用）、すなわち、「開かれ、つながる社会教育」へと進化を図る必要がある。

うらやす思い出語りの会」とは

「浦安思い出語りの会」(U-METc)は、浦安郷土博物館を活動の本拠地として、浦安市のバックアップのもとで、「回想法」の勉強と普及を目指して、平成28年に結成されました。

「楽しく」回想法を経験し学びながら、地域のコミュニティづくりを支援しています。



過去を回想するのも、語り合う相手がいなくても、語り合いがあります。

定例会では、回想法を学びながら、回想法を体験する時間もあります。

どなたでも参加できます。子供のころの写真や道具を見ながら、私たちと一緒に、懐かしい記憶を呼び覚まし、脳細胞を活性化させませんか？

※U-METc は、URAYASU-Memories Talking companion の略です

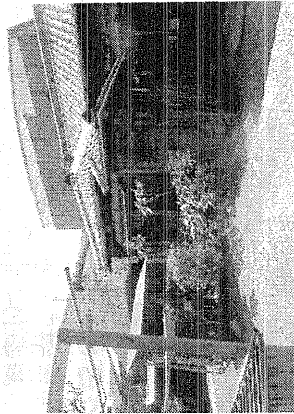
うらやす思い出語りの会

＜活動日＞

毎月第3水曜日
1:30~4:30

＜活動の場所＞

浦安市郷土博物館
中央図書館など



郷土博物館の中

「思い出語りの会」に興味のある方ぜひご一緒に活動してみませんか？

＜お問い合わせ＞

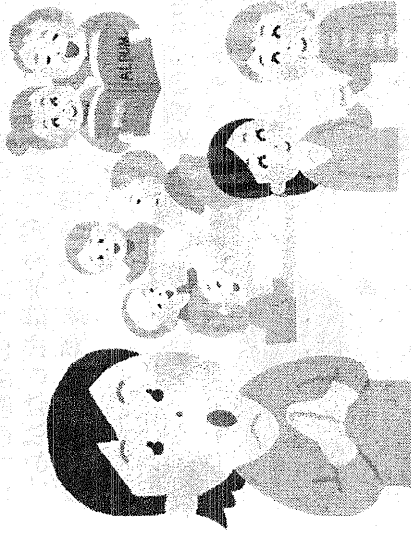
小泉健一

090-8092-7789

浦安市生涯学習課

047-712-6792

うらやす 思い出語りの会



楽しい思い出をよみがえらせ
脳を活性化させませんか

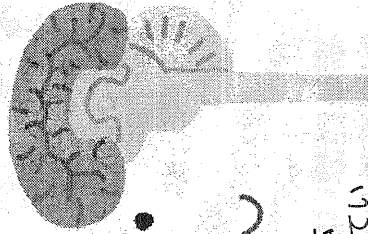


回想法とは

米国の精神科医ロバート・バトラーが1963年に提唱した心理療法。バトラーは、否定的にとらえられがちな高齢者の過去の回想を後ろ向きな行為ではなく、むしろ自然で、老年期を健やかに過ごすための積極的な意味をもつものとして見出しました。

人は誰でも、その人に固有の懐かしい思い出を持っていきます。私たちは、「思い出を語る」ことで、無理なく自然に脳を活性化しながら、再びゆったりした時間の流れを楽しむことができます。

記憶は3つの要素（記銘、保持、想起）で構成されていますが、老化による「物忘れ」では、記銘して保持した記憶をうまく思い起こすことができません。でも、脳細胞は減っていく部分だけではなく、神経細胞は、様々な刺激によって、ネットワークの増加と拡大が可能であると考えられています。



懐かしい思い出を語り合うことで日々の生活に活気を取り戻して、脳の機能を活性化すると同時に、明日からの毎日を意味のあるものとする力にもなります。

回想法は、こうした脳の活動を助けるための実践的な方法です。

どんなテーマがありますか？
 学校給食 梅雨 オリ
 ンピック 住んでいた大
 街 学校の思い出 大
 晦日 家の食卓 家族
 などいろいろ

大事な約束
 会で話されたことはみな
 さんの大事な思い出です。
 この会だけにとどめてお
 いて他の人には話さない。
 途中で退席しても構いま
 せん。

「回想法タイム」

- ・みんなで輪になって座ります
- ・簡単な自己紹介
- ・今日のテーマについて順番に話します
- ・質問、感想などかんだんな振り返りをします

参加した人の感想
 楽しかった 他の人の話を聞いて忘れていた昔のことを思い出した
 前回楽しかったからまた来ました
 いろいろな地方の昔の様子を聞けておもしろい。

回想法を

体験してみませんか！

定例会・猫実地域包括支援センター・浦安駅前支所・自治会・介護施設・公民館などで体験することができます。

＜お問い合わせ＞

小泉健一

090-8092-7789

浦安市生涯学習課

047-712-6792



市ケ尾ユースプロジェクト

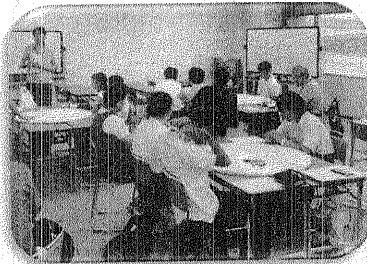
News Letter VOL.02

発行 2019年9月

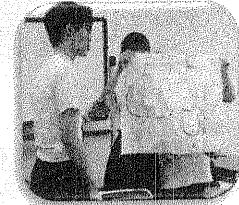
市ケ尾ユースプロジェクト夏休みもバッチリ活動！



夏休みの活動報告



8月30日に市ケ尾ユースプロジェクトの全体での集まりがありました。各チームとも夏休み中に精力的に活動しており、プロジェクトが本格的に動き始めているという実感を持っており、ミーティングを重ねたチーム、実際に「現場」に視察に行ったチーム、お祭りに参加したチームなど、チームごとに様々な活動が行われていました。今回はそれらの活動を受けて、次にどのような展開をするかを考えていく、中身の濃い話し合いの時間となりました。裏面に夏休みの活動についての報告の詳細を一部紹介しております。また柏村市ケ尾連合自治会長様からメッセージをいただきましたので紹介します。



■ 柏村市ケ尾連合自治会長から激励のメッセージ ■

今年も活躍を期待して、まちづくりに私たちも励みます

市ケ尾ユースプロジェクト、3年目がスタートしました。今年もユニークな、そして具体的な活動を計画しているとのこと。しかもその活動の舞台が私たちが居住する市ケ尾ですから、今から、その成果を期待します。住みやすいまちづくりは、当然のことですが、そのまちに住む住民に課せられた問題です。それを、中、高校生の皆さんが誘い水となって様々なテーマを立てて取り組んでくださるのですから、この上ない喜びです。

ところで、私たちのまち「市ケ尾」は市ケ尾古墳を代表とする歴史と、鶴見川周辺に広がる田園地帯、そして、田園都市線の開通に伴う新しく開発された住宅地と、いくつもの顔を持ちます。交通面に目を留めると国道246号線、高速道路のインターチェンジに加えて首都高速北西線の開通の目前。防犯の面では地域にその課題を投げかけています、また、ほかのまちと同様、少子高齢化の波にも対峙しています。交通が至便であることから、転入する住民も多く、新しい住宅がどんどん立ち並んで、今まで住んでいた住民との連帯感にとすればさしみが生まれます。

市ケ尾ユースプロジェクトの活動を期待する由縁です。どうぞ、みなさんの目の前にある課題をしっかり捉えてくださって、若者でないとできない行動力を十二分に活かしてくださるよう。もちろん、私たちも四つの町内(自治)会長らと力を合わせてまち創りに励みます。「つながり」にしっかり目を留めて！

市ケ尾連合自治会 会長 柏村茂

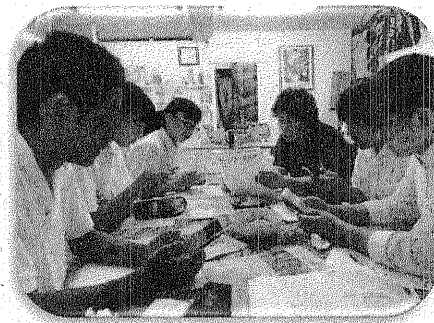
市ケ尾ユースプロジェクト「笑ヶ尾」チーム

7月28日・29日盆踊り大会に参加しました。ミサンガづくりをしました。思っていた以上の子どもさん、家族連れの方が来てくださり、この盆踊り大会参加の目的であった、多世代交流ができた実感しています。お祭り自体も盛況でとても良い経験になりました、このときの経験を活かし、さらなる交流の機会として11月3日の区民祭りでは「なぞ解き」をやろうと考えております。



夏休み施設訪問「つながり」チーム

私たちは夏休みを現場体験学習の場と位置付け、施設を訪問しました。あざみ野の「スペースナナ」では、横浜で最初に開いた子ども食堂や、障害者アートギャラリー、フェルトロードについて学びました。もえぎ野地域ケアプラザでは、子ども学習支援センターの説明を聞きました。またケアプラザ内の子ども食堂でボランティアとしてお手伝いしました。小中学生だけでなく、未就学児を連れたお父さんお母さんの利用も多いそうです。食事を一緒にすることだけでなく、学習の支援や、友達が集って一緒に遊べる場所があれば良いと思いました。またフィリアホールで行われたバリアフリーコンサートではボランティアとしてお手伝いしました。障害のある子どもが楽器に触り、音楽に合わせて身体を動かしているのを見て感動しました。フィリアホールからはボランティア活動証明書をいただきました。



スペースナナ訪問



もえぎ野地域ケアプラザ子ども食堂

市ケ尾ユースプロジェクトとは

豊かな経験を持つ大人と中高生が力を合わせ、まちづくりの課題やまちの魅力アップに取り組むことで、多世代交流によることも、若者の育成支援を行う活動です。横浜市青葉区こども家庭支援課の事業として市ケ尾高校、市ケ尾中学校、NPOまちと学校ののみらいなど多様な主体が協力して2017年からスタートしました。

まちと学校ののみらい

Future Community and School

70歳現役都市・浜松 宣言

人口減少・超高齢化社会の到来は、生産年齢人口の減少や社会保障費の増大などを招くことから、持続可能な都市経営を目指す浜松市にとりましても大きな課題です。

幸いなことに本市は、働くことや社会参加、趣味などを通じて充実した生活を送る元気な高齢者が多い“健康寿命日本一”の都市です。

こうした元気な高齢者が、これまで培ってきた知識や経験を活かし、年齢にかかわらず地域の産業や社会を支える人材として活躍し続ければ、本市の発展、安全・安心な市民生活の実現に大きな力となることが期待されます。

そこで、誰もが健康で明るく、生きがいを持って現役で活躍できる都市を目指し、ここに「70歳現役都市・浜松」を宣言します。

平成31年2月6日

浜松市長 鈴木 康友

浜松商工会議所

会 頭 大塚 実王孝

公益社団法人 浜松市シルバー人材センター

理事長 瀬本 典彦

社会福祉法人 浜松市社会福祉協議会

会 長 山 口 智 之

「70歳現役都市・浜松」関連事業

1 就労環境整備

(1) 企業に対する働きかけ

- ①高齢者雇用に関する企業の実態調査
- ②高齢者活躍宣言企業制度の創設
- ③企業へのアドバイザー派遣
- ④企業向け高齢者雇用促進セミナーの開催
- ⑤高齢者雇用先進企業の紹介
- ⑥企業と高齢者の就職マッチングフェア

(2) 高齢者への就労支援

- ①高齢者向け就労支援セミナー
- ②高齢者向けの就労及び社会参加推進に向けたリーフレット作成
- ③企業と高齢者の就職マッチングフェア【再掲】
- ④福祉人材バンク事業
- ⑤農業分野での雇用創出やマッチング

2 社会参加支援

(1) 地域活動等への参加支援

- ①高齢者のボランティア活動の促進
- ②高齢者に対する情報提供や相談窓口の設置
- ③地域ボランティアコーナーによる情報発信
- ④高齢者向けの就労及び社会参加推進に向けたリーフレット作成【再掲】
- ⑤高齢者が活躍できる学校活動等の情報提供
- ⑥高齢者等による子供の登下校時の見守り

(2) 生きがい活動の支援

- ①高齢者向け講座の充実
- ②市民農園の整備・活用
- ③高齢者団体の活動促進
- ④老人福祉センターの活用
- ⑤シニアクラブの支援

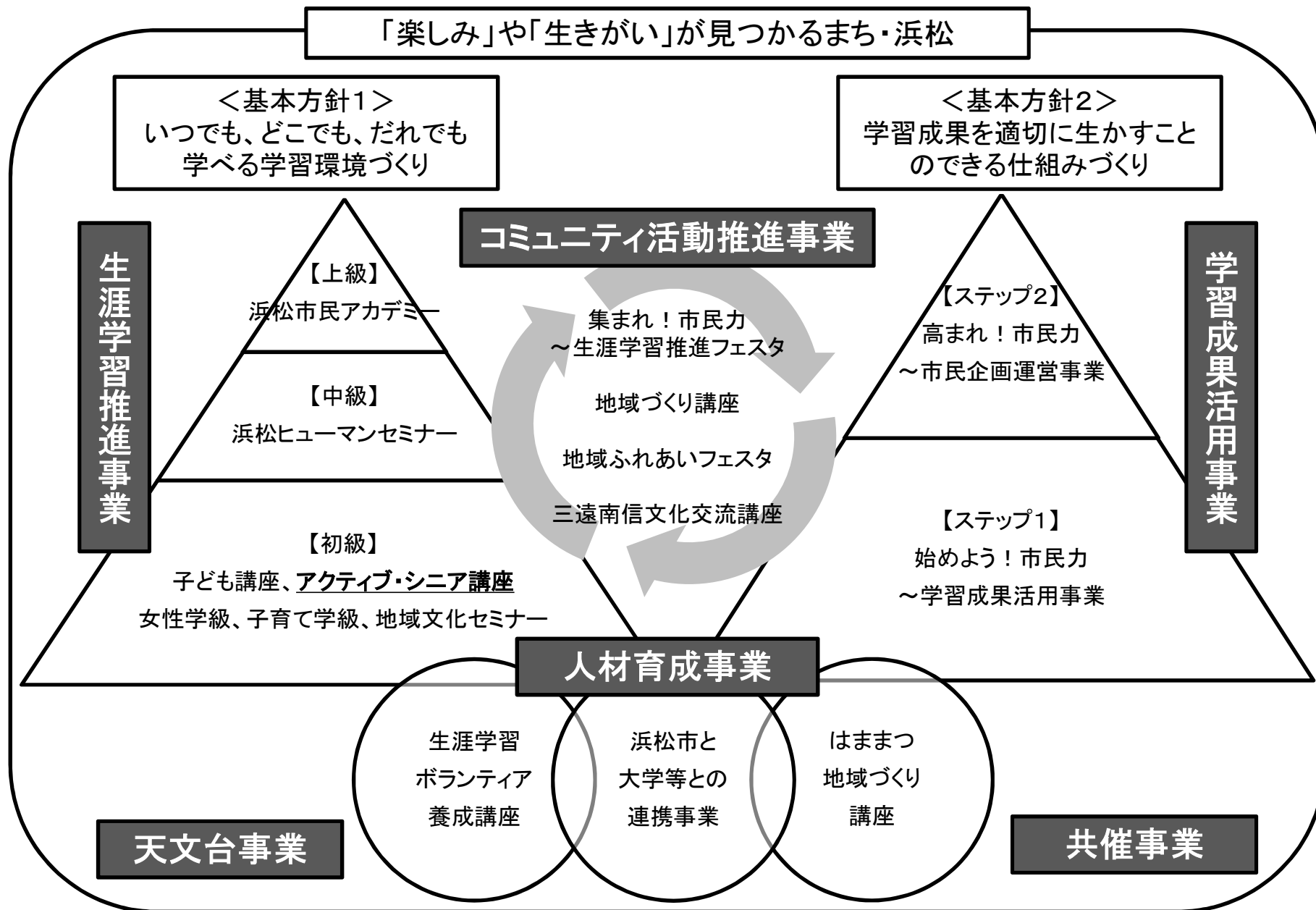
3 健康増進

(1) 身体活動や運動の促進

- ①元気リーダー育成事業
- ②ノルディック・ウォーク健康増進事業
- ③ロコモーショントレーニング事業
- ④はままつ健康増進団体認証事業
- ⑤高齢者の体力診断
- ⑥シニアクラブの支援【再掲】

(2) 食を通じた健康長寿の推進

- ①食育ボランティアと連携した健康講座等の開催
- ②高齢者に対する口腔ケア・栄養改善の支援
- ③栄養講座の開催
- ④はままつ健康増進団体認証事業【再掲】



令和元年「集まれ！市民力～生涯学習推進フェスタ」実施・実績報告

1 目的

- ・地域づくり活動や生涯学習活動への興味・関心を引き出し、市民の地域参画を促す。
- ・学習者、地域活動者、生涯学習施設職員等のスキルアップ及びネットワークづくり。

2 内容

- 日 時：令和元年9月7日（土） 10:00～17:00
- 会 場：クリエート浜松
- 運営主体：静岡県生涯学習インストラクターの会西部地区会
浜松生涯学習ボランティアの会

集まれ！市民力～生涯学習推進フェスタ	
み～んなで 楽しもう ものづくり 10:00～15:00 (各生涯学習施設の講座の紹介や実技体験)	
	はままつ地域づくりフォーラム 13:00～17:00 (講演会、事例発表、情報交流会)

(1) はままつ地域づくりフォーラム（2階ホール）

日 程	内 容
開会 基調説明	<ul style="list-style-type: none"> ・主催者挨拶 ・浜松市の生涯学習の取り組み、方向性
講 演 (100分) 意欲・意識の高揚 スキルアップ・フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・「楽しい対話で地域づくり ～会議が変われば地域・組織が変わる」 ・講師…釘山 健一 氏 (会議ファシリテーター普及協会代表)
情報交流会 (80分) ネットワークづくりの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・活動発表…やらまいか入野 ・参加者同士のテーマ交流

(2) み～んなで 楽しもう ものづくり

- 協働センターの「子ども講座」等をミニ体験コーナーで紹介
フラワーアレンジメント、プラ版キーホルダー、くるくるレインボー、
型抜きクッキー作り、革のキーホルダー、折り紙など
- 学習成果活用事例の実演
浜松学院高等学校の生徒による科学体験ブース

3 実績

内 容	参加者(人)		
	R1	H30	H29
はままつ地域づくりフォーラム	142	132	165
み～んなで 楽しもうものづくり	延べ1,583	延べ1,075	延べ1,270

4 参加者アンケートによる満足度

内 訳		アンケート集計				
項 目 ※()はみ～んなで 楽しもうものづくり			非常に よい (大変楽しい)	よい (楽しい)	あまり よくない (あまり楽しくない)	よくない (楽しくない)
はままつ 地域づくり フォーラム	講演	H29	46%	51%	0%	2%
		H30	62%	36%	2%	0%
		R1	69%	31%	0%	0%
	情報交流会	H29	29%	71%	0%	0%
		H30	56%	44%	0%	0%
		R1	50%	50%	0%	0%
み～んなで 楽しもう ものづくり	H29	72%	27%	0%	1%	
	H30	54%	43%	2%	0%	
	R1	90%	10%	0%	0%	

(地域づくりフォーラム参加者の感想 抜粋)

- ・講師のお話はとても参考になり、すぐに実践できることを教えていただいた。
- ・会議の運営では悩みが付きなかったので、講師の話はとても参考になった。
- ・会議の進め方の話、目からうろこでした。大変よかったです。
- ・講演では、全く新しい考え方を学ぶことができ、従来通りではよくないと感じた。
- ・全く知らない方とグループになって意見交換できたことがよかった。対話型で話し合いをすると、話が前に進んでいくように感じ、今後活用したい。
- ・思っていた以上によい話し合いができました。
- ・様々な職業、役員の方とお話ができて、よい経験になった。
- ・準備がよくできていた。席順も分かるようにしてあってよかった。
- ・フォーラムの主旨や目的がもう少しはっきりと分かるとよかった。
- ・講演よりもう少し詳しい内容での講座の開催を望みます。
- ・事例発表を多く聞きたい。

5 成 果

- 講演会では、アンケートにおける参加者の満足度は昨年度を上回っており、参加者の思いや地域の課題に寄り添った内容にすることができた。
- 講演会では、「会議・対話の進め方」というより具体的なテーマを設定し、講師に依頼した。そのため、講師の話が実際の地域活動で活用できる内容が多く、「すぐに実践していきたい」などの前向きな意見を多数得ることができた。
- 情報交流会では、昨年度より時間を多く確保し、かつ、交流の際のテーマを設定したことにより、話し合いや意見交換のよさを多くの参加者に感じていただくことができた。
- 「み～んなで 楽しもう ものづくり」は、多くの子供や家族にご参加いただき、生涯学習活動の楽しさを伝える場となった。また、自治会を通して地域の回覧版にチラシを掲載するなど、広報活動を充実したことで、これまでで一番の参加人数があった。